

HELLO SAGA



佐賀県国際交流・協力情報誌

心の国境をなくそう！
Free your heart of borders!



SPIRAの本ができました！

「心の国境をなくそう!」をスローガンに、日々多文化共生の地域づくりを目指して頑張っているSPIRAやボランティアの皆さんの姿を描いた本を作りました。SPIRA職員の日々の汗と涙と笑いの数々を、職員自らが執筆しています。我々の活動に関わってくださっている方々からの温かいメッセージも寄せていただき、ステキな本になりました。私たちの失敗や苦勞の経験が少しでも、一緒に多文化共生を推進している方々の後押しになればと、作成した本は全国の国際交流協会や県内の主要図書館等に寄贈してもらう予定です。プラザにも配架しますので、ぜひ手に取って読んでみてください。当協会賛助会員のみなさまには、無料でお送り致しますので、お楽しみに！

公益財団法人 佐賀県国際交流協会

Saga Prefecture International Relations Association (SPIRA)

さが多文化共生センター Center for Multicultural Society in Saga

佐賀県国際交流プラザ Saga International Plaza

〒840-0826

佐賀市白山2丁目1番12号 佐賀商工ビル 1階

Saga Shoko Build. 1F 2-1-12 Shirayama, Saga City

TEL:0952-25-7921 FAX:0952-26-2055

E-mail:info@spira.or.jp

Consultation Service(相談専用) TEL:0952-22-7830



SPIRAイベントチェック

HELLO SAGA
バックナンバー

※2021年4月1日より、佐賀県国際交流プラザは、佐賀県国際交流協会が運営管理しています！ご利用をお待ちしております。

スポーツでひとつに!

JICA九州と佐賀県国際交流協会が共催し、佐賀の企業で活躍する技能実習生など佐賀県に住む外国人に、佐賀に来てよかったと感じてもらいたいという想いから始まった「Sagan World Cup」。2022年の初開催から4回目となるSWC2025も大いに盛り上がり、12月の冬の寒さを吹き飛ばすように、選手たちの元気な声がピッチに響き渡りました。



今回、SPIRAは、バレーボールSVリーグ女子のSAGA久光スプリングスさんのご協力で、「SAGA INTERNATIONAL VOLLEYBALL CUP」を5月24日(日)に開催することになりました! 男性も参加可能ですが、女性やお子さんも楽しめるようなイベントにしたいと思っています。会場は、もちろん! 鳥栖市にあるサロンパスアリーナ♡またとない機会です、沢山の方にご参加いただきたいのですが、実は、参加枠が残りわずかになっています。外国人と参加したい企業や団体、グループの方は、お急ぎ!!! SPIRAにご連絡ください。一緒に楽しみましょう!



▲
詳細は上記をチェック下さい



Thank you for coming

冬季にかけて沢山のイベントを実施し、たくさんの方にご参加いただきました。

1/25(日)「韓国伝統遊び」では、県多文化共生さが推進課の韓国出身の国際交流員キムさんが、韓国の3つの伝統遊び(ピソクチギ、チェギチャギ、コンギノリ)を紹介してくれました。子供たちも大喜びでした!

1/31(土)には、「マレーシアってどんな国? ~住んでわかったリアル~」を開催しました。SPIRAでインターンシップをしていた大学生が、留学先のマレーシアの学校や生活について紹介しました。佐賀に住むマレーシア出身者も来てくださり、リアルな話を聞くことができました。

2/11(水)に実施した、ベトナムのテト・韓国のソルラル・中国の春節といったアジア各国の旧正月文化を紹介する「テト・ソルラル・春節~旧正月おめでとう~」では、ベトナム・韓国・中国出身の講師とともに、各国の旧正月の名物料理(ベトナム:春巻&チキンサラダ、韓国:トック、中国:餃子)を調理し、みんなでいただきました。

SPIRAや佐賀県国際交流プラザ今年度も皆さんが楽しめるイベントを考えて実施していきますので、ぜひご参加ください!



JICA OB・OG通信

経歴：国内の精神科病院で4年間勤務した後に参加。



大塚 衛さん
派遣国：マダガスカル
職種：作業療法士



Q1. 派遣先のマダガスカルってどんな国？

アフリカ大陸の東、インド洋に浮かぶ島国であるマダガスカル。大きさは日本の約1.6倍で人口は3,000万人ほど、アフリカ本土やアジアのマレー系などの複数のルーツを持つ人々が入り混じり、独自の文化を作っています。動植物もマダガスカルの固有種が多く、星の王子さまに出てくるバオバブの木や、縞々模様のシッポが特徴のワオキツネザル、カメレオンなど実に動植物の約9割が固有種と言われています。現地の方々はアフリカ本土と比較して温厚で、マジメで働き者という日本人と似通った性格の人が多く国と言われることもあります。日本語教育の関心もアフリカ地域の中でエジプトに次いで2位と、日本へ好意的な方も多い印象でした。

Q2. 派遣時の活動内容について教えてください。

首都郊外にある精神科病院に配属され、現地作業療法士と一緒に活動しました。日々の患者に対する治療に加えて、まだまだ認知度の低い作業療法士という職業について、看護師や医師などの他スタッフに対する周知や、患者の評価用紙などカルテの整備などにも携わりました。また、農村などで活動を行っていた別の海外協力隊の方と共同で、退院後に自宅で行える調理やかまど作りの活動も行いました。こういった活動の効果もあってか、任期最終盤には元々1名のみだった配属先の作業療法士が1人増員されました。言葉の壁や突発的な出来事など、思うようにいかない時間も多くなりましたが、最後に自分の活動が認められたような、ホッとした気持ちで活動を終わりました。

Q3. 派遣中の一番の思い出は何ですか。

マダガスカルの独立記念日に、スタッフや患者と共同で音楽イベントを開いたことです。独立記念日には国を挙げての大盛り上がりを見せるマダガスカルですが、入院患者の多くは病院で過ごすこととなります。院内でも楽しい時間を、と同僚からの提案もあり実施しました。イベント当日は同僚がプライベートで組んでいるバンドのメンバーも来院するなど楽しい時間を過ごしました。2年目も同様のイベントを行いました。自分は体調不良で参加できない中で、現地スタッフのみで当日無事に実施ができました。同僚から『長く入院している患者さんからこんなに楽しい時間を過ごしたのは初めてだ、と言ってもらえたんだ。頑張ってたよ。』と言われ、彼のやりがいにつながる良い取り組みになったと感じています。

Q4. 帰国後の仕事について教えてください！

私は現職参加制度という、JICA海外協力隊に参加する前の所属先に籍を置いたまま参加する形をとらせていただきました。そのため佐賀県にある精神科病院で以前と同様に勤務しています。帰国後には職場での活動報告に加え、院内の作品展覧会（精神科病院では革細工や裁縫などの手作業の活動があり、患者さんの作品展覧会が定期的に行われることも多いです。）にてマダガスカルの写真やお土産として購入してきた工芸品や民族衣装などを展示させていただきました。マダガスカルという遠く離れた国について、少しでも身近に感じてもらえるような活動を今後もできればと思っています。

JICAボランティアに関するお問合せ・連絡先

(公財)佐賀県国際交流協会内 JICAデスク佐賀 石川 洸

TEL:0952-25-7921 FAX:0952-26-2055
E-mail:jicadpd-desk-sagaken@jica.go.jp

外国人と日本人が共に学ぶ防災セミナー 非常食の試食も 鹿島市



県内の外国人住民が増える中、2月23日（月・祝）に鹿島新世紀センターで「多文化共生防災セミナー」が開催されました。地元企業のほか、学生やSAGA Safety One Team（佐賀で暮らす外国人と日本人が力を合わせて災害につよい佐賀をつくる活動チーム）などから、外国人5か国13名を含む6か国約20名が参加し防災について学びました。参加者は鹿島市で過去に発生した災害を学んだ後、「佐賀県防災ネットあんあん」や「市公式LINE・マイタイムライン」を実際に操作しながら使用方法について学びました。また、毛布や水、ラジオなどが書かれたカードを使い、防災バッグに何をを入れるかをゲーム形式で考えるワークショップも実施しました。



参加者からは「こうした取り組みは外国人たちにとっても役立ちます」との声が寄せられました。交流会では非常食も試食し、「思っていたよりおいしい」といった感想が聞かれ、和やかな雰囲気の中で交流が深まりました。日本人住民からは「これからやさしい日本語を意識しながら理解を深めたい」との声もありました。本セミナーは防災をテーマに、地域住民と外国人が互いを知り、つながりを強める貴重な機会となりました。今後は、非常時に住民同士が支え合える体制づくりを進めてまいります。

佐賀県では言葉や文化の壁を越えた交流の場を広げていきます。

佐賀県地域交流部多文化共生さが推進課 TEL 0952-25-7328

多文化共生等事業助成金の申請を受け付けます！

SPIRAではCSO（市民活動組織）の皆さんの自主的な国際交流・協力、多文化共生を促進する活動に必要な経費を助成しています。これまでに助成した団体の活動はこちら。



ベトナムの中秋節イベント



講演会イベント

応募資格

佐賀県内で活動する非営利団体で政治活動、又は宗教活動に関しない団体に限ります。団体の所属メンバー数などに制限はありませんので、地域のグループや大学生サークル、学生団体等でも申請は可能です。

対象事業

(1)多文化共生事業

県内で行い、県民や外国人住民を対象として行われる事業で、地域の多文化共生推進を目的とする次のいずれかに該当するもの。

- ア. コミュニケーション支援
- イ. 生活支援
- ウ. 多文化共生の地域づくり
- エ. その他、地域における多文化共生の推進事業として適当と認められる事業

(2)国際交流・協力事業

国際理解・交流・協力の促進を目的とする事業で、海外又は県内で行い、県民や外国人住民を対象として行われ、次のいずれかに該当するもの。

- ア. 海外との国際交流事業
- イ. 海外または県内で行う国際協力事業
- ウ. 海外へ支援物資の輸送事業
- エ. その他、本県の国際交流・国際協力の推進に寄与する活動と認められる事業

みなさまの申請をお待ちしています！

締切
5月
31日 

締切が例年より
1ヶ月前倒しに
なっていますので、
ご注意ください！

助成金対象事業	助成率及び助成額
(1)多文化共生事業	助成対象事業の実施に要する経費総額のうち対象経費の全額。上限を10万円とする。
(2)国際交流・協力事業	助成対象事業の実施に要する経費総額のうち対象経費の3/4。上限を10万円とする。

助成金事業詳細ページ

